

平成30年2月27日

報道機関 各位

## 第6回「人文知」コレギウム

—漢字、その深奥なる世界へのいざない—

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る3月20日（火）はその第6回目となります。テーマは、「漢字、その深奥なる世界へのいざない」。現在、確認できる漢字の最古の形である甲骨文字や、漢文訓読を通して、文字の中でももっともおもしろいといわれる漢字の魅力を伝えます。（詳細については、別添チラシをご参照ください）。

本研究会は、一般の方や学生の聴講も可能です。

（無料・事前申込不要。ただし、ウェブでの申し込みも受け付けます。

<http://www.diversitylounge.jp/collegium/postmail.html>）

つきましては、当日の取材・報道方、よろしくお取り計らい願います。

【本件に関する問い合わせ先】  
富山大学 人文学部総務課  
TEL. 076-445-6131

第6回

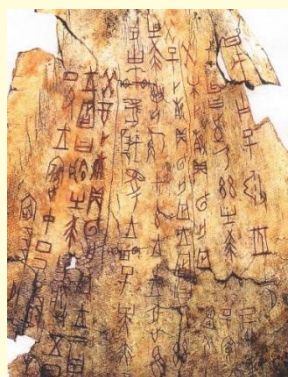
富山大学人文学部  
富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

# 「人文知」コレギウム

漢字、その深奥なる世界へのいざない

2018年3月20日(火) 15:30~17:30

富山大学人文学部1階大会議室



## 「甲骨文も言語である」

森賀一恵(東アジア言語文化講座・中国言語文化教授)

甲骨文の否定詞「不」「弗」と「勿」「弼」は用法が異なり、命辞において「不」「弗」は「受年」「死」「雨」のように人の意志では制御できない事例の否定に用いられるのに対し、「勿」「弼」は「往」「征」「狩」など人の意志で行うか否かを決定できる事例の否定に用いられるが、占辞では逆になる。類型論的なmodality研究の成果から知られるmodalityの普遍的特徴を踏まえた上で、漢語のmodalityや古代漢語の「勿」の用法も手がかりにして、その理由を明らかにする。



## 「漢文訓読研究の コペルニクスの転回」

小助川貞次(東アジア言語文化講座・日本語学教授)

漢文訓読は、中学1年から高校3年まで6年間も勉強してきた漢文文献を読解するための重要なツールの一つである。日本独自の方法と信じられている漢文訓読であるが、中国語、朝鮮語、ベトナム語にもよく似た方法があることは意外と知られていない。さらにヨーロッパに目を転じると、中世ラテン語文献の中にもヨーロッパ諸言語による類似した方法が存在する。漢文訓読に対する一般的な理解や教育方法、そしてそれを支える漢文訓読研究は、重要な転換点に来ている。

お問い合わせ:富山大学人文学部総務課  
TEL 076-445-6131/FAX 076-445-6141

一般・学生聴講可/無料